

欧州特許庁、ブラジル産業財産庁と機械翻訳を含む協力に合意

2012年4月12日

JETRO デュッセルドルフ事務所

欧州特許庁（EPO）は、4月11日、ブラジル産業財産庁（INPI）と機械翻訳を含む協力に合意した旨、プレスリリースを行った。

同プレスリリースによれば、両庁は、合意に基づき、EPO ウェブサイト上での無料の特許翻訳サービスへの利用を目的としたポルトガル語と英語の二言語のコーポラを作成するために、特許文献の交換を行うことが予定されている。同合意の背景には、フランス企業による INPI への出願が 2010 年から 2011 年にかけて 7.7%増加、ドイツ企業による出願が同様に 14%増加していることに加えて、ブラジル企業による EPO への出願が 8.9%増加していることがあるとしている。

バティステリ長官は、同プレスリリースにおいて次のとおりコメントしている。「本合意は EPO と INPI 間の関係において新たな節目を定めるものであり、2つの地域における知的財産の保護を強化することを目的とした戦略的な関係へ向けた道を開く。欧州企業は、ブラジルの特許システムの最も活発なユーザーであり、全出願の 38%を占めている。このような状況を背景として、二庁間の向上された協力、とりわけ、ポルトガル語から英語および英語からポルトガル語への文献の機械翻訳は、言語の障壁を打破するのに有益であり、かつ、両地域の発明者、科学者および技術者が自由に利用することができる豊富な技術情報を公にするだろう。気候変動や清潔な水および食料へのアクセスのような複雑な挑戦にはイノベーションなしで克服することができない。ここで、特許保護は重要な役割を果たす。」

また、協力内容には、機械翻訳のみならず、特許付与手続、特許情報、IT 等の分野におけるベストプラクティスの共有が含まれているが、これらの事項については、両庁は 2011 年 9 月 28 日に 5 年間の協力に既に合意に達していた。

なお、EPO は、2003 年に、スペイン語圏およびポルトガル語圏の中南米諸国の特許文献を対象としたデータベース「LATIPAT」をエスパネット（espacenet）の一部として立ち上げており、スペイン語またはポルトガル語から英語への機械翻訳を提供しているところ、今回の合意によってポルトガル語と英語間の機械翻訳の更なる精度の向上が期待される。

－ EPO のプレスリリースは、以下参照 －

[Brazil and EPO to enhance co-operation on patents](#)

－ EPO と INPI の協力のこれまでの合意についての欧州知的財産ニュースは、以下参照 ー
[欧州特許庁、ブラジル産業財産庁との更なる協力に合意（2011年10月3日）\(PDF\)](#)

－ LATIPATは、以下参照 ー

[Latipat – espacenet](#)

(以上)